

平成24年度 在宅医療連携拠点事業成果発表



医 療 法 人 明 輝 会 内 村 川 上 内 科
在 宅 医 療 連 携 拠 点 事 業 推 進 室

<http://www.meikikai.com>

内村川上内科の紹介

- 鹿児島市北部に位置する有床診療所(19床)
- 診療科目～内科、肝臓内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、放射線科
- 昭和50年の開院当初より地域への往診を積極的に実施
- 平成18年、在宅療養支援診療所の指定を受け、24時間365日の

往診体制を確立

- 常勤医2名、非常勤医6名

平均外来数 46.5人/日

平均入院数 18.4人/日

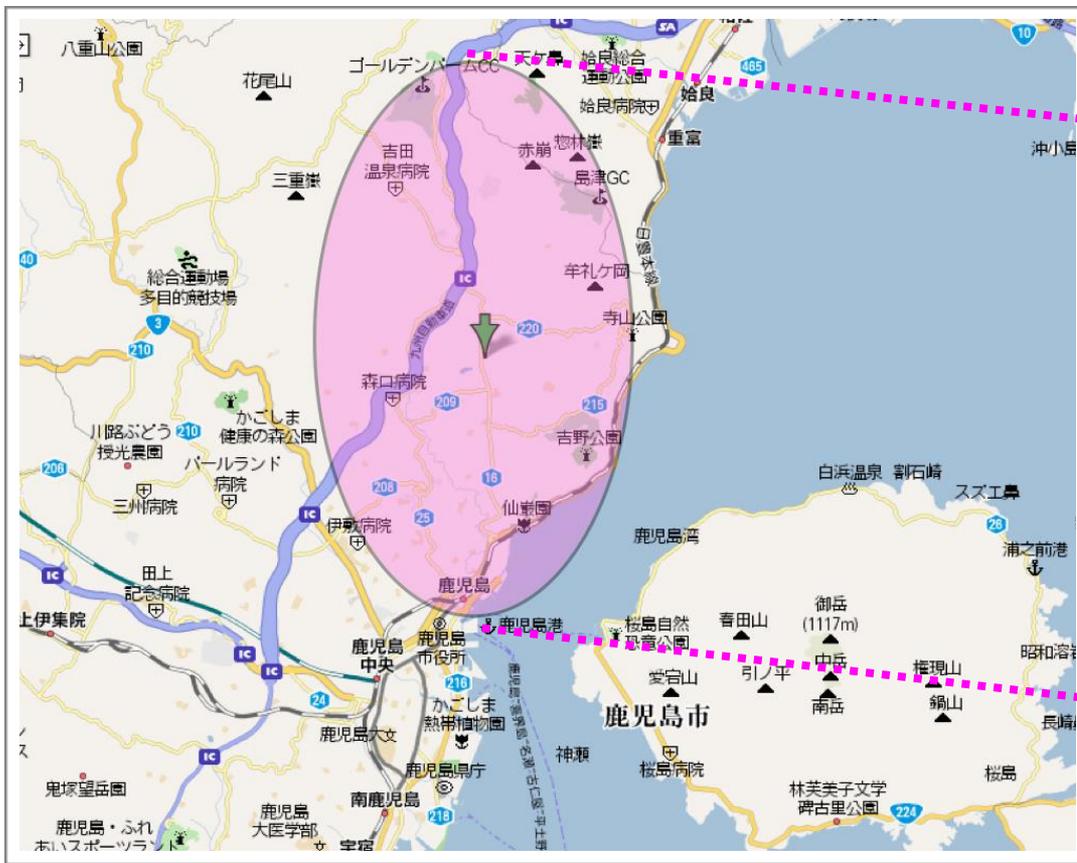
訪問診療件数 約232人/月

(平成25年2月時点)

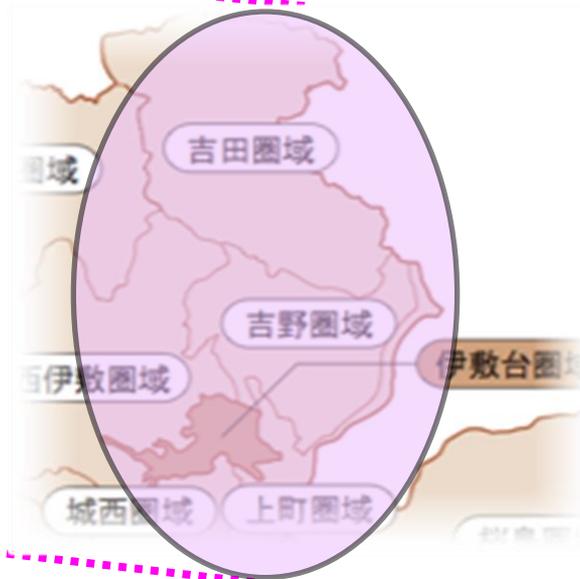


当院の拠点事業の範囲について

- 日常的に連携する場面が多く想定される医療機関・介護系事業所があり、当院を中心として車で約30分圏内を範囲に設定
- 鹿児島市医師会支部区分に基づく「上町支部」と「伊敷支部の一部」を事業範囲とし、便宜上【上町地区】と総称



上町地区



～ 引用 ～

※Google マップ

※第5期鹿児島市高齢者保健福祉・介護
保険事業計画 P.44 第5期の日常生活圏域

上町地区の特徴

- ▶人口～約10万5千人（高齢化率 26%）
鹿児島市の区画整理事業に伴い大型商業施設などが 3～4年近くの間に進出し増加傾向
- ▶医療面～高度急性期病床は、最南部にあたる上町に集中している
急性期医療が必要な場合は救急車で南下し治療
- ▶在宅医療～長期療養病床は少ない
慢性期医療の担い手は有床
無床の診療所（診療所数55、
在宅支援診療所19ヶ所）



桜島と錦江湾

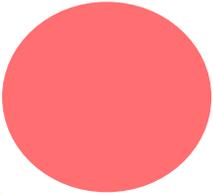
- ▶ 高齢者医療～有床診療所の存在は重要（有床診療所19）
各診療所が独自に在宅医療にも取り組んでいる
- ▶ 介護施設～措置制度時代から社会福祉法人等の施設があり
代替医療ベットとしての需要がある（介護施設15）
- ▶ 介護サービス～訪問・通所系のサービスや地域密着型サービスが早くから定着し、事業所が競合している
- ▶ 地域性～在宅医療、介護サービスを行う地域資源の数は十分に整備されている



おはら祭り
と
西郷どん



これまでの当院の取り組み



- 上町地区多職種交流会の開催（5回）
- 地域住民への普及啓発活動（7回）
- 地域住民向けサロンの開催（6回）
- 在宅医療に関する勉強会の開催（3回）
- 在宅医療パンフレットの作成
- 地域包括支援センターや医療機関との連携
- 情報共有ツール「キュアケアネット」の開発と運用

上町地区多職種交流会

- 多職種連携上の課題や解決策の抽出を行う為のグループワークや在宅看取りについての講演会、拠点事業成果報告懇親会などを行う
- 第1回 161名、第2回 146名、行政・管理者 67名、第3回 320名、第4回 88名、のべ476名が参加
- 医療・介護従事者、行政担当者など、多職種が参加し、とても有意義な会であるという意見が多く、来年度以降も交流会の継続を望まれる声が多かった



地域住民への普及啓発活動

□ 地域住民向けフォーラムの開催

- 平成24年10月26日、吉野公民館体育館にて開催
- エリア内の医療機関、介護事業所、鹿児島市役所に協力を頂き、それぞれの紹介ブースを14箇所設置
- 在宅医療について医師より講演会を実施
- ブース関係者・地域住民など合わせて102名参加
- 参加者からは「訪問診療と往診の違いがよく分かった」「また開催して欲しい」と好評であった

□ 鹿児島市北部保健センターでの講話、地域行事への参加

- 講座後、在宅医療について講話を行う
- 平成24年7月12日、26日と開催し、計97名参加
- 地域の敬老会、ふれあい会食、おたっしゃクラブなどへ参加し、パンフレット紹介など実施

□ パンフレットの作成

- 在宅医療連携拠点事業についての説明・紹介を目的としたものと、一般の方向けに在宅医療の啓発を目的としたもの二部を作成
- エリア内の医療機関・介護事業所・地域包括支援センターへ無料で送付



地域住民向けサロンの開催

- ボランティア養成を目的とした地域住民向けサロンを月1回開催
- 講座受講者と在宅介護について意見交換会や在宅医療パンフレットの活用し啓発活動を行った
- 「家の近くでこのような会があると参加しやすい」「お友達が出来、参加が楽しみ」と受講者には好評であった



在宅医療に関する教育・研修

□ 医療と介護の勉強会の開催

- 講師を招き「褥瘡ストーマケア」勉強会を開催
- エリア内の訪問看護ステーション、訪問リハビリ、ヘルパーステーション、デイサービスより23事業所、合計55名が参加

□ DVDによる研修会

- 国立長寿医療センター制作のDVD「在宅医療の風命と生活を支える」の視聴による研修を実施
- 法人内15事業所、合計113名が参加し、在宅医療の重要性について理解を深めた



キュアケアネットの開発と運用

- 在宅医療の質を高めるために情報共有を図れる何か便利なシステム（ツール）が必要
- 安価で使いやすい情報共有システム「**キュアケアネット CCN**」を我々自身で開発し使用中

demo1

ホーム アクティビティ 情報 その他

最近使った薬

demo1
昨日の午後 3:08
9991 ワービニ風邪薬を服用
10月 10:00 午後 1:00
9992 出席します
8月 13:00 午前 6:08
9993 出席します
8月 13:00 午前 6:08
9999 ワービニ風邪薬を服用。
8月 13:00 午前 6:08

通知

全アクティビティに含む
 アップデートされたときメール通知

もうすぐ行われるイベント

訪問介護
2012年8月4日, 29日 - 2:59
アイケアがやります
2012年10月25日, 9月 - 16時
訪問介護
2012年10月4日, 29日 - 2:59
アイケアがやります
2012年10月25日, 9月 - 14時
アイケアがやります
2013年1月8日, 8月 - 16時

処方情報

医師
> 履歴

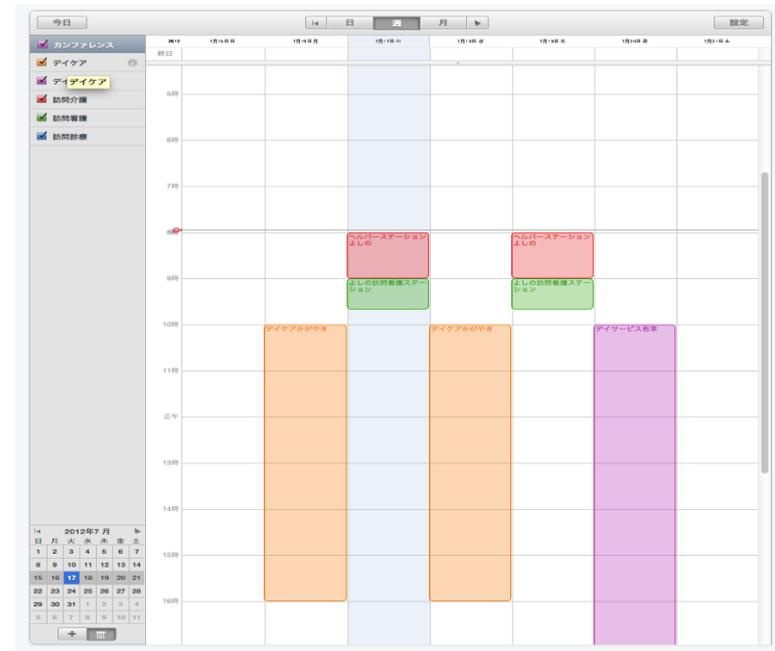
氏名	demo1
生年月日	1911.01.01
紹介医	紹介医 1

訪問診療	内村川内科	月2回訪問診療 夜医館
療科訪問	〇〇療科	月1回訪問診療
調剤薬局	〇〇調剤薬局	処方

2012年7月24日現在の定期処方

- 1 アイオノン錠20mg 1,000錠
総食後 1 x 40 日分
- 1 ゼナール錠10mg 1錠
プレストミン錠3mg 1錠
ミオナール錠50mg 1錠
タケプロンOD錠15 15mg 1錠
ニパアームSR03 900mg 1.0錠
総食後 1 x 30 日分
- 1 ツム子養命草散エキス顆粒(医薬用) 2.5g
総食前30分前 1 x 40 日分

主治医	ドクター demo
CM	ケアマネ demo
家医連携	

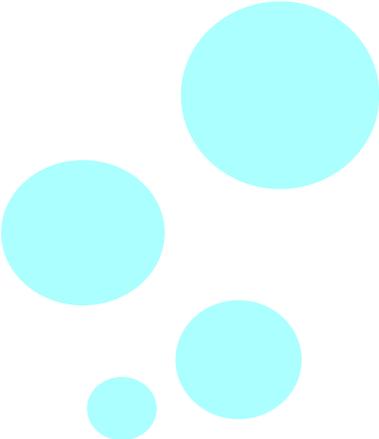


キュアケアネット (CCN) とは

- 我々のアイデアをもとに、我々自身が試行錯誤しながら作ったシステムである
- 初期費用は約25万円と非常に安い。その後の維持費は電気代とインターネット料金だけ
- セキュリティーと個人情報保護にも十分に配慮した
- 一人の患者にアクセスできるのは、アクセス権を持った人だけ。たとえば、主治医、訪問看護師、ケアマネジャー、ヘルパーなど
- アクセス権の設定は我々自身で行うのでいつでもアクセス権のオンオフが迅速にできる
- 経時的にメモを残したり、患者のスケジュールを書き込んだカレンダーを見たり書いたりできる
- これらのすべての作業をパソコン、スマートフォン、タブレット端末からアクセスし、情報を見たり、書いたりできる

拠点事業の活動を通して

- ◆ 交流会や訪問を通して、地域の医療機関や介護事業所等へ在宅医療連携拠点事業の必要性や重要性の周知は図れた
- ◆ 一法人の呼びかけでもある程度は実施できたが、ステークホルダーの調整やより多くの医師に参加してもらうには行政・医師会の働きかけが必要不可欠である
- ◆ 地域住民へ在宅医療について普及啓発するためには、周知方法の工夫と継続した働きかけが必要である
- ◆ 情報共有ツールの利用で多職種間の情報連携が円滑に行えることがわかった



ご清聴有り難うございました

川上秀一(内村川上内科院長) 新地一浩(同統括部長) 汐田一誠(同事務次長)
馬渡文世(看護師兼介護支援専門員) 池田悠(社会福祉士)